

114
A2712



前乃花方補丹之聲乃高利高
 長村井原兵衛所乃之鑄山之理
 少及之者及之為兵衛之其骨也甚
 之キに堪へスち悔に於る自死スル云フル
 後其鑄山之聲自身之所者に為し
 たり其顛末殊に刻々其勝一
 せんノ事乃る今日志集殊に其事
 跡ヲ鈔録し後口に送つて備フ
 由辰ノ事之者益岡ノ藩主南部某層
 津ノ連合に在軍に於テ事誌定ニ後

大正十一年四月
 侯爵郵寄贈

朝廷其罪ヲ悔スルニ未ダリ其意換ス一のキ
所望七松系象ヲ以テ之ヲ贖フヲ許サ
ルル付駐播ノ後ナレハ清野駐蹕ニ
今家儀カニ由ヒ雅カラシ事ヲ慮リ英
國高社アトト社人凡ソ其ノ多ク松
ハ茶程豫ッ借入ニ事ヲ為ス然レニ意
外都令向更安宿ニテ今家儀補タシテ
以テ無人ニ意為ニ及ハントスルニ違約至
少前田ヲ得ニ事ヲ言ヒ幕府ニ以テ止ラ
得ズ物迄ニ家儀ヲ借リタリ此則福

ノ外國債ナリ

一昨ノ日滿ち海川井清花ち故少張所
在勤ニテ日滿ノ家高村井田兵衛ヨリ
出タシ達ニ曰ク英國ニテ借入タル金之内
は銀拾貳萬枚我金ニシテ十二万四千
四百金同ナリ其方
實ニ付々付充分丹精ヲ以テ運精ヲ取
計ニ期限満了ノキチ精カク有ル物ニ
ト茂告出ル再ニ辭スレモ清野大ニ怒リ
其意色々顯ハレテ野ノ責遂ニ壓
制リ以テ無理ニ誘至ラ出サシメ而ノ在望

・明治二年十月清廷の借款の事
返納期限ヲ二度定ムる期ハ翌三
年六月迄期ハ十二月迄納ム可シト也
リシ事國ニ受取シヨリ未タ三十日ヲ出テサ
ルニ清廷例ノ聖制強硬ヲ以テ即刻
ト納ル不キノ以テ嚴違ヲ示スル事爲
懲爲ス所ヲ知テス然レモ毎日の強硬
爲ル事爲期ハ其ノ期限ヲ定ムル貸出
洋船等中ニ至ラ若干ノ損失ヲ爲シ取
返シ或ハ所爲物ヲ償當ニシテ借銀ニ俄カ

・返納の事
海兵衛海軍大臣の奏あり是に於て
千石程あり其内ヲ以テ之を六ヶ岡ニ引
返納シ翌三年二月既ニ大尾トナリ未
ク其海軍より其旨を返シスルノ事
象アリ其旨を英商ニ高アールン南都
滿債掛方横濱ニスルノ事ヲ外務一
民部省ニ候テ大英商ニ裁別トナリ
其旨を英人より其旨を英商ニ
分償シタムモノト取年ニ即刻爲事

少納のキノ程強ハナリ而も其處ニ分付ク
非ヤク趣身由答辨スレ雖モ其處ニ
叱抑壓シテ毫モ其情実アルヲ容入レス
其即刻少納ス可シトノ嚴位アル而モ其
其處ニ其寛ヲ許シテ所ナリ年坐ノ立リ
所ヲ知ラス付テ其由出店ニ國許ニ倉
庫家財毒害子由ニ在處世長身ニ立ル
迄善ク日苟多クお取ラ付ラレテ切ニ其
由ヲ敬塞セラレハノ初ニナラス其由亦モ
禁多ク命セラレタレ所大ニ其由業ニ其

卿方ヲ存ホシ親族ト雖モ家業ノ多シモ
致サレハ其由世に難當シタレ店モ今日
ハ閉戸寂寞タリ其由處ハ一層憤懣
ニ百名辨解スレモ其由初モ其情実ヲ
採酌セシ味不花若ニテハ川村撰ヲ即刻
少納ニ達ラセテ其由初ニ於其由出ルハ如
斯堅刻ヲ初ラ入ラハ毒害子由亦其由
之行未ク其由且ク悲歎シ大勢ヲ容レシ
テ鳴泣スルモ其由亦其由今ハ無事非其由
状ニ其由亦其由雜替下決心シ大ニ其由

若、出テ曰ク最早何ヲ辨シテモ亦採用ナ
キニ於テハ彼ノ多寡ハト納致ル可シ然レハ
倉庫家財ノ取テ解カレカ材多ク許
サレカ一々條許ノありつても此カニ補達ト
納スルブヘシト然レ決カ存テ事トシ能ク
届ク事ナリ

茂兵衛ノ事ヲ思儀ニモ多ク事トモ決
ルレハ事トシテ其ノ理ナキノ
金ヲ出テスマシキト數十。苦心集テ思
ル。今、家業衰頽一家ノ破滅ニシ難替

ト決心シ其金ヲト納スルニ付テ倉庫側
ヲ歎氣スルモ之ヲ許サ、然レ勿論其増責
ニシテ嚴ナル前日増レリ何ノ意カ全ク業
ニシテ落ケスト一因落物トシテ判決ヲ付ルヲ志

ラス 此ニテ尾玉根鏡山ノ事ヲ申ナ
ラズ 實證シタケトイフ 能無今 朝廷

對シ無理ナガラモ之ヲ納ラザル申スル以テハ
是非並難シトテ根議ニトテ之ニ三系ニシ
糸ヲセテ年賦納シ納出タルニ許ナラス亦
五ヶ年ニテ年端ノテ納ケ月賦ニ納出ラセ
許ナラス其増責此ノ事トラスシテ海

意不中ノを喜ぶ事ニ及リ其時俄
カニ移多シク達ニナリ其時曰ク其方
事件外國人ニ關係シ實ニ亦容易事
トモ移別ニ其意也ヲ以テ其方所
ニ尾去澤鑛山ヲ有ル也而シテ
之事則テ後サレタリ

陸中國盛固其存日國尾去
澤鑛山移人

村井茂兵衛
著出函外國員債之内分倍也

近の事簿其付於外債員此等陸
中國尾去澤鑛山移人止ノ其時
而一切の買上其代價ヲ以テ補給
起多移別ニ其意也

壬申三月 大藏省

此書面ニ壬申三月ノ事ニ及リ其時
其書面トシテ事トシテ其國ヲ有
其情ニ移多シク達ニナリ其時曰ク
其情ニ移多シク達ニナリ其時曰ク
其情ニ移多シク達ニナリ其時曰ク
其情ニ移多シク達ニナリ其時曰ク

レテ今更彫鑿山掛のや價ヲ彼ニ十五ヶ年
賤ク拂ひしむ本、高冬、家、一、教、月、就
マ、件、サ、レ、ス、此、事、之、神、者、鑿、山、ヲ、没、收、セ、ラ
レ、レ、甘、名、一、諸、國、高、貴、と、於、カ、甚、シ、キ、家
嚮、者、ヲ、及、ボ、シ、人、之、其、身、代、ヲ、危、シ、至、レ、リ、於
是、西、兵、之、由、一、岡、田、子、龍、ノ、計、政、之、原、シ、テ、快
リ、日、夜、喜、德、濃、食、ヲ、シ、安、道、ノ、明、治、五
年、丑、月、日、ヲ、了、於、ち、故、自、死、ニ、及、ベ、リ、ト、云、フ
當時、釘、店、岡、田、子、龍、ノ、家、ハ、毎、夜、お、欠
等、集、會、家、物、ハ、割、烹、店、ノ、如、シ、平、花

先年幕府の家人、事出奉り所拒受
レ、傳、地、ヲ、占、メ、タ、ル、お、坐、ニ、百、年、象、ヲ、貸、シ、置、テ
ん、レ、シ、國、ニ、傳、古、ノ、際、ニ、吏、負、某、ト、ハ、若、ハ、負、債
山、ノ、如、ク、俄、カ、ニ、窮、乏、ニ、落、魂、セ、リ、テ、お、花、集
會、ヲ、寄、語、ス、ル、ニ、某、年、余、儀、一、人、ノ、娘、ヲ、平
花、ニ、夢、ク、茶、ノ、鉢、任、其、他、ハ、何、ニ、テ、モ、氣、附、ク、
召、出、セ、聊、ナ、リ、ニ、思、得、テ、去、リ、靴、エ、ん、ト、ノ、事
ニ、テ、引、承、メ、ん、其、娘、ハ、幕、府、時、代、ノ、毎、五、十、レ、ハ
ニ、弦、琴、ニ、遊、藝、ハ、カ、端、岡、若、連、歌、ノ
如、キ、モ、聊、心、得、病、ハ、モ、ノ、ナ、レ、ハ、之、ヲ、お、負、上

等々ありしは身月聞見するに思はせし事
料ありは他は美事なる事之ヲ略ス
井上ち花ち補魚官トナリ陸中國ニ趣キ
其鑛山ヲ石程スルニ至レリ於是世間此ヲ
日人ノ所者ナリト事ヲ明セリ是迄南
部西也ニ於テ或ハ七部組ノ所者ナリ又ハ
三井ヨリ資ナラズハ暗昧リシテ其名ハ
函田ナリト云凡實ノ所者主ハ刺然セサリシ
由別明以六年一月ヨリ井上馨尾
吉澤天利若シ鑛山中ハ廣告シタニ

たしゆ

當鑛山是迄函田等花山主ニテ別魚方
少部組ノ所者ナリト事ヲ明セリ是迄南
部西也ニ於テ或ハ七部組ノ所者ナリ又ハ
三井ヨリ資ナラズハ暗昧リシテ其名ハ
函田ナリト云凡實ノ所者主ハ刺然セサリシ
由別明以六年一月ヨリ井上馨尾
吉澤天利若シ鑛山中ハ廣告シタニ

中迄の達事

五月三十日

国田平馬

深川安太郎

方之海の達事
考也

尾之澤鑛山

奥山所印

之澤坑坪掛

製衣鑛所

鑛所

の業所

鑛山地之境、從四位并々聲所為也
之、新多工標本ヲ立習タリ
以テ後日法恨ソ疾リ此事ナルヲ聞クを
シ島中月法ニ事出仕ト其方正ヲ鑛正セシト
ノ趣意ニテ法ニ事出シ本ノ所日年
十月、征韓論者緒息ニツ、勿レシテ
其生テシ痛シカレシ官ヲ辭シ島中女
務ニ事、甘名大臣奏議シ後痛恨ハス
原古シタルヲ以テ遂ニ鑛山事件ハ中止ス

征韓論之廟議ニツ、カレシキ陸軍警
察弗勝ヲ生シ府縣所謂者ナキ事ト
思フン者ハ取持論ヲ立ラズ或ハ國權ヲ更
張スヘシ或ハ内國ニ若事ヲ去テ向テ海
外行ク及ハレリ其從區ニ遂ニ内政ヲ先ニ
除クトシ論者多クあり或ハ禮ニ具忠禁
ヲ集ルルニ則尾去澤鑛山ノ如キモ其リ
系中ノ一ニシテ尚多クあり或ハ禮ニ具忠
カニ教唆スルアリ或ハ又モ如極大智リシタ
カ高ナ月ナリ且法省採内裁判所換

事向ハ少論ス然レモ俄ニ難運ヲ要ス
年一月八日且用如ク待員其詳如ク
二月廿更ニ再議ニ存フ然レトモ今年餘
ヲ經テ結果ニ至ラズ於是多難ヲ召得日
的ニ出京シ如案等ハ別ニ應具事行レサ
ヨリ少慮ヲ生シ禮ニノ器ナキ等ヲ為レ或
貴野官邸ニ至リ如礼ハ人ナリ別鑛山
事件ニテ少慮如ク然レモ明載スルニ至
ハ年五月祥為時且法省ニ於テ鑛山事件
掛員ニ權ヲ別事ニ歸ス如鑛權中判事

小幡美祐曰大島貞敏十人共公明正
大いさ案判り為レト己い少部兼臣の推回
いと相互し内務の事出仕北代正臣の一時
推回し他りり禁し井上馨をいし出レし例ヲ
恒例と通し況に事出んは生國の日
人い限り其指令を日新事ヲ以テ推回すべ
し由る事一日の旨に及ばラレスト於是
用法前中 源清起り河野判事等ハ
益事指令に抗辯レタリ云
大政大臣より大内用法帳に内達を日馨ヲ

心出に云く或い云く指令と終つへし
之の用法帳差フルと該事件ハ河野判
事ハ少部ヲ附たり氣くは國ハ内達者
いなり無んは條大臣より河野に申越サレハ
三内波アルに付外達事申すに付河野
三少部に列ル本内伊東西各儀の度
多公曰り井上云く例に通り内務サレしは
神若テ曰く日御用帳に申事各各殿
付し山崎計し大臣各儀列坐し事公
常こ買スレハ公物たるは政大臣より内達ハ心

得申上旨今因違レノ趣ニ付ルハ所野權
大判事ニ斷然美玉難仕ルヲ即退録
レ去レリ其後大内史ニ方久之ハ禁方小
川街ノ卯ヲ有テ親シク其事ヲ創從スハ
理慷慨シテ曰ク夫國ヲ維持スルノ法ハ國
權ヲ曲々在テ其將々之ヲ固クスルニ有ルハ
又且苟ニ怯官ニ列スル者コレテ怯ヲ曲クシ
加曲直ヲ曉味ニ付スルヲ以テ其責任ヲ尽
スルハ大是事人ノ向ハストモ平生是事
ノ胸中ニ於カ分明スル所ナラスヤト斷然

之ヲ拒絶スル事ヲ有テ所野判事議
事ニ親任ス
冬議板垣退物島海老名臣ノ如ク耳
面満口ク井上馨ニ長坊ニ何コテヒテ勤
王ノ電右ヲ裏カセリ且如常ニ人ヤナリ然
ガ議事ニ任シテラ然ト因議方ニ方ニ先キ
存疑中一財失策ニアリシナレハ是事ハ
既往ニシテ取テ端スルニ空ラス且當今ニ至
謹慎悔悟ノ物ナリ云々大内臣之ヲ廳
スルニ議事ニ任スルノ内儀ニ決シタレモ亦一

何種致鐘之ヲ拒毛在大臣之ヲ聽カレス
而ラ世名ノ致鐘山ニシテノ誤傳播シタルヲ
以テ仔細ニ中止シタリト云フ

河野判事、後官ニ任ルル以前、月法有
於ニ鐘山判決、掛ハ楊判事ニ長安ト
等致別所存、勤ヲ命セラルル人肯セ
ス止若中、漏漏起リタレトモ遂ニ其係
免セラシムル、本戸卷、議月法、眼ヲ以テ
テ曰尾、澤一件ハ一以、是ニ事、從ス其
置ラ、徳島、歌ト、卿之ヲ、諾シタリト云フ

口以、身、河野、十、幅、ち、為、之、名、ヲ、願、ハ、從、ス、ラ
以、止、ニ、テ、得、ス、井、上、以、出、ス、キ、ノ、指、令、ニ、リ、タ、ル
ニ、月、法、卿、ノ、子、ニ、ア、リ、未、テ、判、官、ニ、付、セ、ル、於、是
月、法、口、具、指、令、ヲ、モ、テ、等、致、別、所、存、ニ、更、シ
大、島、五、等、判、事、改革ニテ、権中判事
トナシ、五等判
事、也、田、藤、市、河、西、尾、集、ニ、人、ノ、命、ニ、更、シ
尾、去、ハ、鐘、山、一、件、掛、ハ、為、ス、以、事、ヲ、聞、テ
致、鐘、山、多、望、セ、サ、ン、者、ナ、シ、如、ク、ハ、大、島
判、事、ニ、控、マ、ス、ト、維、ニ、他、兩、人、ノ、如、キ、ハ、梟、鳥
者、ノ、連、中、致、ハ、西、深、ノ、如、キ、ハ、梟、鳥、人、ニ、カ

終事し、高家モ似不、芭直ヲ公行せし
ルノ教アリ、下村、野望ヲシタル事アリ
レは、御学多、女ニシテ、實地ニ御アハ、其人
ノ長所、ナル由、大才、女、文部、娘、タル、村、部
ニ、付、名、シ、名、分、家、息、御、徳、ニ、由、得、アリ
シ、由、池田、ハ、空、故、人、ニ、テ、西、海、ニ、比、ス、レ、先、ツ
著、實、實、村、ニ、人、ナ、レ、ト、モ、固、ヨリ、確、半、タル
正、論、徒、ニ、非、ス、故、ト、大、島、判、事、一、以、論、ヲ、カ
シ、ト、歎、ス、ル、ル、此、政、向、シ、判、事、一、職、利、由、カ
水、ニ、係、リ、已、ニ、審、訊、シ、裁、決、セ、シ、ト、ル、ル、時、ニ、裁

判、事、其、廷、ヲ、退、キ、議、事、シ、テ、多、敷、ニ、私、ク
三人、テ、レ、ハ、二人、ノ、後、ニ、ツ、キ、五人、
ナ、レ、ハ、三人、ニ、上、ノ、後、ニ、ツ、リ、
明、也、ト、其、局、ヲ、終、ア、ラ、フ、得、ヤ、ル、ニ、徳、ノ、一、の、由、ナ
リ、ト、云、フ
大、島、判、事、モ、疾、ク、私、事、ニ、私、付、タ、ル、先
ツ、井、上、ヲ、以、出、ス、事、ニ、申、至、キ、関、係、者、類
ヲ、池、田、而、深、ク、付、テ、曰、リ、終、事、ノ、由、續、如、私
真、ト、私、説、ノ、上、思、存、ア、ラ、ハ、終、事、論、セ、シ、而
テ、信、札、孫、ニ、取、掛、ル、の、レ、ト、西、海、等、ノ、救、口
之、ヲ、見、テ、論、テ、曰、リ、後、事、一、件、ノ、如、キ、ハ、本、来

均改裁別ニシテ尚所ニ受理不可キモ此
不冷飯之ヲ造屋ニ懸フレハ其是礎
ヲ築レリ而シテ今其立具等ノ備ニ拘泥ス
ルハ抑枚葉ノ事ナリ云ハ一時全ク反体
論ニ出タリト云フ換事句ノ行テモ存良固内
稿ハ其ノ換事論論凡一録ニ必ス云ハシ
運ヒニ至ラシメレハ尽カテ中ノ空然井ノ聲
鏝山事件ニ付ル具罪報ヲ恕ストノ特命ナ
レハ其探索等ハ可止トノ事ナリ皆此特命
ヲ悞シテ窺ヒタル云子ノ特命ニ非スレテ同

法領ノ特達ナリトノ事ナリト由
右ノ由傳テ府公ノ字込ナリ島本仲道ヲ
其郵ニ付ヒ鏝山事件ノ願未ヲ字取リ
既ニ這ニ意自見ラ陳セラレトノ從ナリト云
揚艦朝鮮江華灣ノ變アリ廟議多端
之ニ乗スルニ板垣矢議分離論ヲ多岐ニ在
大臣公之ヲ賛奏シ候ハニ條大臣等ヲ知奏シ
左大臣板垣矢議ナリ辭ニ付テ以テ事全
ク止ラテ後大島判事ハ換事件ニ付テ
官ヲ辭シタル後ハ事秘密ニシテ外洩セ

天保二行年十一月三日
東京幕府所申渡明和八年十二月
以了為着

紙幣大馬川村選

其方儀不花者十等由仕三判理白勒物
中四属の外園債五種之際村并為各
有舊金兩箇一傳之實上之多之白之儀
却レタルニ系上十月日滿之貸付ト見做シ
徴收セシ神藏制律出納有違條之因リ
盜賊ヲ以テ論ヒ懲没三年之旨過誤失

采に出上リ以テ右更公罪引傳例圖ニ照シ
討俸ニケ月申付事

但村并為各處福ヲ尾去擇銅山附屬品
買上テ代價日人並儀之而五置チケル
違式之輕高ニ懲没十日

一吟味中尚學高之代人堀村之各上私租
ヲ求メシ事ハ少應為之輕之而ヒ懲没三十日
由四報ヨリ輕キニ仍テ更ニ論セズル

一右多收シタル銀ニ系上金銀大花者ヨリ違
徴シテ村并為各處一還付成不向其者ハ

申付事

内務権方並地代正臣

其方儀大花者立等出仕テ判理自擔当
中一舊藩の外國員債取調ニ出村
并尚年々取テ取立ヘキ並多収ルルノ
文案ニ連署者セシ科名例律内係犯公
罪條ニ依リ川村選ニカニ從トナシ一等ヲ
減シ懲役二年申テ更ニ尚時患ニ罹リ事
務調査ノ氣力乏シク專ラ重犯ニ任セ並々
ハ情状ヲ酌量シ更ニ三等ヲ減シ懲役一

年有吏公罪符傳例國ニ照シ四符俸一月
申付事

但し収シタル並ニ系立午別ニカニ花者ヨリ追
徴シテ村并並生處ニ還付致スル其旨
可レ申付事

長四位并少弼

其方儀大花者立等出仕テ判理自擔当
川村選カニ從ニ爲リニ等ヲ減シ懲役二年
ニ並年々取テ取立ヘキ並多収ルルノ
申付事

二一併一田川村選吟未中一為女且種
ヲ以テ私和ヲ求メテ是件等ありて
口角を漏ル身好方可有心得事

但多収セシ是亦二第廿九第廿大花者ヨリ
追徴し追テ村井母号ノ一ヨリ得
有具方可有心得事

長城物主様
大久保親房

其方儀大花者在取中一村井母号
福々屋吉澤鑛山附係品買上代價

日人並後之征者之も係法滿之文系
二連署セシ科名例律日憲犯之罪
條、傳り所由田村選ハ日羅タリト名
素より後件事務ニ関係セサルヲ以テ
情状ヲ酌量シ一等ヲ減シ多罪

長上佐岡が律三郎

其方儀大花者在取中一村井母号
福々屋吉澤鑛山附係品買上代價
人並後之征者之も係法滿之文系
二連署セシ科名例律日憲犯之罪

ニ依り所由川村還ニカニ没トナシ一等ヲ減
シ無罪

大坂村士族

川井清龍

其方儀口蓋園為大座在職中取扱
ニ同為員後右我ニ付於方知為取扱
即日為滿ヨリ村井高兵衛ニ同債抵償
ニメシ是ニ對立ヨリ免テ以テ同之ニ貸付定
トナシ以テ具申セシ科改定律令カニ百四
扱七條トシ去人証カ實ヲ以テセサシモノ、

ニ重ニ擬シ懲役一ケ年ニメテ已ニカ多征者取
扱一件ニ付禁獄一ケ年ニメテ改テ注んヲ以
テニ罪保免例ニ照シ罪等キニ依リ更ニ
少論ト事

右十二月ヨリテニ落着ニテ其前ヨリカテト由
請物ニ違アリ

院為便府知

議者井ノ名

特命副全權驛理大臣トシテ朝鮮國

上被差遣候事

明治八年十二月丁未 左大臣三條實美

若田傳三郎興立基礎確
立字込書

一傳三郎明治四年以ハ陸軍省の
用達少将を和助方に雇ハシエが偶失
策アリテ和介方ヲ脱シ府北區堂島
裏町ニ於テ廢業ヲ賣リ生計ヲ營
居シガ元家高大弁也其弟ト知己ト
爲ル同人和家ニ爲テ橋浪系橋東
ト入ル南側ノ家ヲ借テ從來和助
引受居リシ炎硝製造ヲ出氣ニ官

許ヲ得る官ノ製造ヲ引受たり此時
傳三郎密ニ年代中尾某處ニ謀リ
遂ニ中尾主トナリ入江伊介が如ト
同意ナシ官ノ炎硝夥安盜取之及
テ傳三郎高業ノ資小トナシテ所
遂ニ餐ヲ取スルニ及ヒ傳三郎大ニ怒レ
忽テ中尾脱走ノ状ニ堂島裏所ニ
且ニ潜伏サセカリタリ明治六年四月日
其助ヲ傳三郎ヲ呼出サレシヨリ其
澤ニ其方年代中尾ニある官盜ヲ

為シタルヨリ其拘引スベキ所今所在
分明ナラサレハ其方々所在傳三郎ノ上
至急召ツレテ其出モト申出サレシ其
方俱ニ四村人ヘキ名ニ付傳三郎恐懼シ
百方熟考忽テ悪計ヲ出シ非道ヲ以
テ中尾迫リ遂ニ中尾一死ニ至テ
左高瀬橋樞筋地ニ入ル花屋ノ向裏
ヲ借り受ケ中尾ヲ蒸ス入レ毒薬ヲノ
マセ其病ニ状ニシテ其助一由出タリ
乃テ傳三郎死リトナシ而シテ其助

ヨリ今橋三丁同春日某十人醫師、
病ヲ乞ヒ薬用中、遂ニ毒薬ノ為
ニ同年六月ニ死去セリ、然レテ子傳ニ
即チ年代培助トイフ者古事一実事
未知ニ何向來危難ニ思ヒ中尾死
去ノ後、殊ニ傳三郎ヲ辞シ浪々堂
島海辺橋辺ノ或ル米高家一年代
トナリタリ、然レトモ中尾ノ事一ヲ継承
トセシ、亦此傳三郎ヨリヨリ元ノ如ク年代
タラシ事一ヲ依頼スル、再ニナレトモ恐懼

シ取ラ辞シタリ、中尾将某、明治
七八年ノ此傳三郎一引立年代トナリタリ
一前年、亦職ハ先般傳三郎ノ金ハ百
圓程掠ニ取リ一旦何ト脱走セシ
カ、何分傳三郎ノ前密ヲ知ル者ナレハ
取ラ替ハシ、然ハス再ヒ何ト傳三郎ノ方ニ引
取リ職業ヲ致サセ置キ、ヒガ亦脱走
シテ所在分ラズ
右ニ次、亦ナレバ、亦傳三郎興立ノ基礎
モ全ク炎硝ノ密盗ヲ起リタシ事

判此ナリ姓事一実ハ若ク堪助一曰身
同亦_{スレハ}確然明了_レ之録事一

裏二月廿日也

望月元武

藤田傳三郎身代抄素

略記

傳三郎元長海者三山城屋和介
ノ番頭ノ如クシ明治二三年辰卯大坂今
橋_ニ出店_シ板別是_レ申程ノ職業モナリ
明治八年七月辰_ニ玉_テ巳_ニ身代限_ニ及
ハシトスルヲ山縣有明島尾_ニ福_ニ太_ニ内
密鎮基ノ豫備_ニ西_ニ系_ニ圓_ニヲ_ニ貸_ニシ_ニ大_ニ板
鎮基ノ_ニ用_ニナ_ニテ_ニ命_ニセ_ニラル_ニ固_ニテ_ニ負_ニ債_ニヲ
償却_ニシ_ニ可_ニナ_ニリ_ニノ_ニ身_ニ代_ニト_ニナ_ニレ_ニリ_ニ夫_ニヨ_ニリ_ニ一_ニ切

鎮臺ノ用違ハ本人ノ限リ賣上等致させ
他ノ商人ヨリ出ス品ハ直ニシテ品位宜シク
此之ヲ退ケ同臺ノ用違ハ苾田ノ不動
産月極ニナレリ此時分ヨリ山縣鳥尾共
ニ大坂藩一在之世ニ藤田ノ宅ヲ宿トナ
シ馳走賄賂ノ善美ヲラサレ所ナレト
年西南ノ役ニ於テハ出軍ノ惣用違ヲ同
人ノ命ニ則苾田組ノ名称ヲ付ケ軍夫
ノ抱入ヨリ草鞋ノ買入ニ由リ同組ニ
一時取次ヲ求マサレハ賣ルヲ得ス依テ大

坂商民共義衆申合テ草鞋品位ノ
宜シク價ノ廉ナルヲ以テ其價差アルヲ買上
氣出タルニ會計吏員甚シキ者ハ等拒絶ニ
テ決ミテ許サス價ノ高ニ品位ノ善惡高
ハス苾田組ニ申付タル由此時分一ヶ月後
田ヨリ入ル所ノ物惣四千五百餘金ト上リ
ト云々其ノ島尾ノ骨董古物画ヲ買ヒ
タル苾田ヨリ多額金六千餘金ハ是ハ今ニ
其年ノ由其以前ヨリ島尾ハ北ノ新
地一ノ谷ト云フ烹割店ニ在リ登リ福

勇ト云フ奴ヲ寵孝ニ足容色アハルカ
ナラス物更ニ長シ頗ル氣入ルカ右
烹割店ナハ者ハ物更ヲ行フ者ニ非
サレハ何程金満家ニ雖モ之ヲ存外ニ
置キ実ハ瓜依ノ子五所ニテ然ルカ
田ナル者右物更ヲ支分銀三百圓
更金五百圓都立六百圓ヲ以テ自宅
ニ引取島尾ノ妾タラシモ亦自身ハ西
京祇園ノ有名ナハ藝妓小玉ヲ引
取妾ト為シ山縣等ノ貴家ニ接對セ

シノ其ノ交際深密ヲ極メタルヲ以テ
吏員タル者ハ友田ヲ為敬スル事長
官ノ如ク藤田ハ日ニ増繁ヒ増長シテ西南
早夫ノ金別一人七枚五錢余ヲ拂所
カ振武此余ヲ拂トス其早夫ノ數ヲ
減シ空賃銀ヲ中取シ小長等送リ之
ヲ口ニ唱レ氏一人トシテ許ッル者ナリ
高知人等之ヲナラテ許ハシムルカ
傳三郎ノ妻ハ西京祇園新地ノ地
兼ト云有名ナハ妓トテ之ヲ宅ニ引取

ノ少玉ト同エリ格對ニ出スル云フ
右友田ナシ者ハ始微々々身代ノ者ニテ
商業ヲ為サレト歎ルモ資多ナリ中其
格ト便リ共同社ノ雇ヒトナリ漸ク月
給立テ丸圓ヲ仰ク是ハ明治九年ト云ハレ
思ラクハ新橋スル也此
ルニ大博間ノ鉄道諸員ヲ為スニ云リ
現今其身代百系糸トイフ別目今ノ
家邨ハ之ヲ理善ノ所方ニシテ其家此
ノ方ニテ系糸糸モ掛リシト云フ
一或ル高民ノ曰ク大心彼西南ノ役ニ得テ

ニ利益ヲ少ク立テ万糸ニシラス夫ニ鉄
道諸員ニシ格立テ糸糸是ハ友田ノ自由ニ
スルヲ得ス等
ト合ニテモ二三糸糸ニシラスト大ニ怪シ
居レリ
一月人曰ク廣島學長ニ浦モ才女汝ノ節ハ
甲以ル母島庵友田親ニク交リ大
高法ヲナスノ目端ヲ立テ此秋ハ大極ニ
於テ是辭表ヲ出ス内決ニタルニ此
幸先キテ岩倉公井上超善品川福ニ
即チ以テ召呼ハレ品川モ精神ヲ極

メラ島先ニクハ今ハ高法ノ事ニ中
絶ニ居ル由塔共因社知レヒ百廿拾馬
力内外ノ濼船ヲ外圍ニ浮文ニクハ事
ハ今ニ卷説絶スト云リ
一春田カ長海ニ存ル時旧藩札ヲ偽造
シタルアリ山城ニ助ケラレシ者ノ由
大坂商人申セヒ是ハ未々確タル説ヲ
得ス

一堂島島之柳川ノ多寡ヲ買ヒ取タル
庶子本票之進久留米府中在ノ魚

款ノ黨ニク西南事ニ喜軍ヲ請負ヲ
ナシ俄ニ身代ヲ持上ラタリ是モ今鎮基
用違ヲナシ此以少シク米亦所ニ損毛
ニタリト雖也春田因教ト云説ナリ

共同社ノ創立ハ大正前鉄道

如起ノ標領概畧

井上馨大藏ヲ補テ免セラレ大坂ニ来リ工
シレウ社リカ云テ立テ始メハ資本ナクシテ微
々々々者ナリシニ山口縣令中野操一ニ從キ
同縣廳ニ官民共有ノ如キ金五拾萬圓
アリシヲ資本ト爲シ之ヲ以テ共同社ヲ結
ビ商法ヲナス其社員ハ井上社長山口縣
伊東品川榎村等ニ人ニナル由物ニ格
別ニ商法ニ爲スヲ見サルニ諸方ニ及店

ヲ役々山口ヲ本店トシタリ此に至ラレハルルニ
大坂府の事海邊ヲ説キ伊府人民共
有金百餘カニ以トアルヲ引出タシ社資ト爲シ
トス其財分海邊知事ハ天保山築港ノ
事ト熱心シ他ヲ願ミサハ伊府決シテ許
スルハ模様ナシ依ル井上ハ一策ヲ廻ラシ中
野格一々謀ル辭表ヲ出サシノ上京シ
伊藤本戸両参議ニ後ク曰ク中野ハ
一縣令ノ任ニ溢レタムヲ以テ不平アリ辭
表ヲ出シタリ因テ海邊ヲ儀名ニナシ中

野ヲ印事ニ任シテ然ルベシ云々本戸
伊藤兩参議之ヲ採用シテ已ニ奏問ナラ
ントスルニ其奸謀アルヲ大坂商民中
有眼ノ者ヨリ大久保内務卿ニ密告シタリ
因卿ニテ申止マラレ却テ中野ノ辭表ヲ
採用ニナリタリ故ニ止ムヲ得ス大坂府共
同社員トシ井上代り同社ノ事務ヲ司ル
依リ同社ト異名ヲ付シ官員高社ト唱フ
ルニ其申入社シテヨリ社業サレク上ラ
ントス西南ノ役友田組ヲ立タシモ社員中

皆為貴ノ官員ニシテ人ノ諂リヲ免レシ事
ヲ欲シ社雇員タル藤田ノ名目ニテ出奉
ラ引受其実ニ中野ノ筆圖ヲ受タレ由
藤田十人若狭別大キ十人筆ヲ格フ
人おエナラス

明治十三年四月大改鉄道局長ヲ命ジ
大伴間ト架線アラシ事ヲ伺フに許シナラ
サルヲ中野格一十人者亦一策ヲ廻ラシト
京ニ井上伊友ノ両氏ニ謀リテ鉄道架
線ノ許シヲ得タリ其亦亦ヲ尋ヌルニ共
同社ノ名目ヲ出シテハ失張リ諂リヲ求

メスヲ以テ藤田傳三郎ヲ氣人トシ自身
ハ關係セザン形ニテ竊カニト京或ハ方々ト
商議ニ政府人民ヲ役ニ信用セシメシ為メ
鉄道架線ノ起法ヲ改ク因ク西京ヨリ
大伴迄四里内ハ名架線積負金多格ト
其圓亦借シ身金ニ其圓ヲ亦細シ若
シ鉄道政府ノ注文通り少補付ニ身元
金ヲ没入ニ注文通り出奉タレ時ニ鐵道
積負金ヲ賜ル所求ヲ立タレニ東京格
積負金ノ快道ニ比例スレハ金程ニ割ナリ

ト云フ以テ其ノ許ニシテ其ノ好々ニ亦中野
奸策ヲ廻ラシク之ヲ金ハ多ク公債ヲ以
テ入ルニ計リ東亞付テ禄券返シ物ノ時
ニ願門或ハヨシバ張第を等々人ヲ出シ窮
士族ノ公債ヲ清取帰路ニ待掛ケ百餘
券ヲ立指圖甚レキハ五拾餘ニ買ヒ大凡ニ
萬圓ニ及バレト歎スル際寧モ金禄價
格ノ凶達多シ失望後悔シタル者多ク
多シタル由ナリ故ニ中野ニ凶達ニ基キ廣
價ニ買タル金禄ヲ以テ容易ク三系田ノ

身中金ヲ襖ヘテ其ノ貸カニ或モ金内
外ニ潤タル由而シテ其金禄利子ハ年々
中野ニシテ其ノ幾分カノ利益ニ由
タル由

一右ノ如ク許ニシテ其ノ歸リシニ鉄道局長
ハ順席ヲ經サルヲ以テ一時不服ヲ唱ヘ
ト歎スルニ冬議子部卿等ノ派我ニ思レ
テ泣キ去後入トナリ却テカヲ尽スル由
一始ハ友田ノ就人ニテ中野ハ周旋人ノ如キ
海ナリシニ今トナリテハ其実ヲ我ニシ全ク

鉄道架線、共同社ノ高法タリト事
判ルニタレ由

一中中平等ノ目的ハ大伴司ノ鉄道ハ何等
金損失ニ及ラズ之ヲ成就シ官民ヲ信セシ
ノ續テ大垣ト名取藩をテ經テ東海道ノ
架線請負ヲ為スカ内部ノ目的ニテ已ニ
テ部内派、西郷ハ内許セラレタル由
一共同社大坂府井上ニ等ノ隊ガ社ニ来ル
ヤ博奕ノ始マラサシム事ハナシトノ説ナリ
共同人ハ亦一ノ長所タレ由毎ニ勝利ヲ得ルニテ

大坂府の沖之方通
匠長

金澤 某

右より若狭沖の四指の間に銀の五拾五匁
圓ノ資を以て出せ且金銀の助イワレヨリ出
タレヲ知ル者ナレトモ怪マサル者ナレ

甲府の南極江と海と五丁目
米高

五百井 長清

右より若狭の金銀の通と海と五丁目

出レ四万銀或ハ七萬圓持拂ハ其金筋
何レ不出んカ多分是亦人ノ性ハ所
ナリ

右兩人ノ好代及釋債ノ要五百并此年
中大坂府官員ハ本銀集ヲ利息付ヲ
以テ借入タル金拾壹圓アリ其他海邊也
事ハ借入タル事モアリ之由四款四圓五
銀行ト出シタル金をあハ海邊良ヲ直
借ニ返還ノ所有也ト云フ

大坂府種越法也

二拓出銀圓余

存者是迄人民ヲ取立借入費ノ内
中ニ拂残ヲヲ銀ノタルモノニテ大藏卿ト
届サレ金ナリ該金ヲ返還民ノ勿漏諸
課長等ノ如キ借入レサル者ハナシ
一等係一人ノ借者アリト云フ

廳官員ハ本銀集

多ク者返還ノ執事ニテ多分今モ印内
ニお掛リ返還ノ會計ヲ列シ十二年一
月迄ハ一等屬ニカアリシヲ免職ニ云フ

大坂祖税金ニ付

三拾万圓

右若旧年大藏省ニ由サレテ宿
負自由ニ借用シ行先キ、之正金六萬
圓、今現令帳廻リ存所拾八萬
圓ト云フ

此十年ノ月、右若者、負重入、
ハ、今、帳廻リ取、
之、
ハ、
日人、
表、
出、
由

現今ハ、
之、
ハ、
由

其儀、
月、
ハ、
井、
ハ、

多澤區長ハヨリ貸付利息ヲ取り
タルハ此節取糸ハ由

儀異ハ右歩ハ其第余糸ヲ貸シハ是ハ利息ハ取テス

其内ヲ堂島米ハ而ノ才之金ハ入レハ右

情ハ以テ高法ヲナサシハ由ハ此等ハ姓

交催ハセストハ云リ

右ハ次亦ハ以テ五百井金澤兩人ハ

身代ハ府金ヲ借用シハ者共テハ質

幣ノ一件ハ婦疑ハアハ者ハ非ストハ雖ハ此

集令ハシハ探偵ヲ記ス

讃海在龜國五銀ノ資質

探偵

始高ハ縣士族若ハ高某ハ頭取ハ大

坂府ハ銀ノ没立ハ氣出ハ府聽

故ハアハ許サハ夫ハ妻ハ姫ハ氣出ハ客

易ハ許ハ得ハ後ハ在ハ士

族ハ録ハ債ハ暮ハ其ハ方ハ實ハ工ハ

ナルハ政ハ應ハ者ハ數ハ百人ハ在ハ龜

子ハ族ハ刑ハ探ハ慮ハ所ハ以ハ

ラハ之ハ應ハ者ハ社ハ共ハ倒ハルハ

役ヲナシタム者アリ人衆ニ至響キ一付
物議起リタル由

初岩崎ニ見込ニテハ十萬圓募ルヘキノ
所四萬圓ヲ募ルト姓從起リ俄ニ土

州ニ歸リタルハ男十月中旬大正春國社會豫
教云シタル也

十月中旬ニ出ラ同ノ十一系圓ノ資亦ヲ

土佐ニテ募リタリトテ持来リ日途ノ内了

在龜ノ銀リヲ得立シタリ者十一萬ハ妙ハ

シテ募リタルハ其助ニシテ亦分矢張り高

知ノ士族ニテ募カリシト云フ由ナレトモ柳

高知ニテ募ルルニテ亦十年ヲ以テ古坂府ニ

立シトシ亦無資亦ニテ在龜ノ十萬ノシ者ヲ

レハ俄ニ十年サレ高知ニテ募リシト云フハ定

ラ五志社ノ所有者ヲ持来リシナラシト

云フ

此々亦右十萬圓ノ資亦ニ今十萬圓ヲ

加ヘ都合ニ十萬トナシテ古坂ニ支店ヲ開

クトシ今折角法ニ家中ノ由

右支店資本括共約十萬圓カニ高知ニ

持来リニ付各分カレ古坂ニテ募ルルトテ定額

府の人々係承り受けたる者アル由ナリ
支那社ノ山林ヲ夢却シタル事イマヨリ
今運轉セシメ教系田アリト雖イマタ
取負フサル由ナリ

長崎海藤石炭坑ノ

詔書

右者西洋人ト合シ謀リテ口知政府ニ
係リ借入金ヲ出サシメレトシタル者トシテ
決シテ後返リ欲付シタルヲ非サシメテ
國人探知シ通辦山石馬車果リ以テ

司事卿ニ忠告シタレハ其ノ政府ニ
所分往後アテニ百系圓ノ口知政府ニ
報告又ト後サレハ其ノ論マサシメテ
其ノ由

後藤ノ此年十二月長崎ニ有リ通ヤ西
海多國強事ヲ知報使ニ其ノ事果會
ヲナシ深ク文誼ヲ結ビ以テ年々其ノ
親睦ヲ主トスルト亦當ナル事也其ノ由
觀テ見シタル其ノ契ハ千九百系掛リシ由
是ニ然ル事也其ノ響キハ其ノ令富國強明

ハ然レ探偵ヲ出サシタル由
十一年五月二旬高知ノ安岡道右衛門
越前ノ北田定一ノ海軍省ノ警備社
會員ヲ促シタル打モ後藤孫ノ北園ニ行
ク可トテ過分ニ旅費ヲ取返シテ由
一此年身代契人ニテ年立百圓ヲ年付ト
シテ久為未ニ強奪ヲ買コトナリト者アリ
別其事ハ久留米警備社ニテ探偵トシ
取油ノ事ト長崎縣ノ出タルトテ
福岡令ヲ長崎縣ノ任セタル由是ニ專

ラ後藤孫ノ身ナリリ地方ニテハ必伴專ラ
ニ有リ此後ニ有テ消ヘタル由後藤孫
カニ東京本概所ニテ郵電ハ明治八九
年此ニ東京中ヲ走セ廻リ後トシテ
金ヲ借ラシテ一人出ス者ナシ如此ト代
ニシテ坑業ノ大事業ニ掛ル後令長崎
ニ助テアリト虽坑業以外損在テ益ナシ
亦親睦ヲ結ビタル西人ノ該業事
件ハ該海ヲ起ル事サシク疑ヲ入ル
所ナリ

廿一年十月七日
出タルヲ聞テ其矢策アラシキ事ヲ歎息シ
急ニ長崎ヲ立西沼人用行神一戸を
別十月七日ノ曉ニ著タルニ板垣一其前
必浦戸在ヨリ高知ニ歸リシ跡ニ於時
ニ多程ノ望圓ヲ携テ右リシト云フ

京都府の京況

一 模村の事ハ左ノ兩人ヲ奉ニ官私ノ間ニ
家事ヲ学ムノ事エアリ

西京招京ニハ東側

平良 地條古平

二 條ノ端橋村ノ隣

招尾一平

一 右地條古平ナハ先年己レが身寄
リノ女子ヲ奉ニ納メタルヲ以テ奉
甚ク之ヲ奉ニ以テハ府廳ノ用達ナリ

勸業場ノ金ヲ借用シ家業益盛ナ
リ。泉海寺ノ祭事向等フ却之ヲ
引渡ケタルハ皆知事ノ要廠ニ依ルコ
ロナリ

一右借用金高ハ一万五千円ニシテ是ハ之
檢當物アリトガ返シ自儘ニ賣拂今ハ
無檢當ナリ

一右此ノ凡ソ三万圓ノ借財アリ今日ニ至リ
之ヲ弁償スル能ハス或ハ日知事ノ少保ニ從
テ曰ク右ニ系糸ハ多時居住ノ家作ヲ賣

却スルハ凡ソ六千圓ニナル一ハ右六千圓ヲ勸業
場ニ預リ残リニ系四千圓ハ無利息ニ貸主
却リ六千圓ヲ以テ債ヲ買入レ勸業場
ニテ使用スルヤハ二千圓年ニシテ是ハ皆福
トナルカニ新ク整セトル事ヨリ勸メタレ
レモ小條ハ之ニ應ヤサリシト

一右松尾一系ハ何等ノ状ヲ以テ知事ノ之ヲ
愛スルカハ知ラサレトモ松尾ノ居住宅ハ松村
知事ノ買求ノ典ニシテナリ抑此宅ハ
以前ハ新寺執事ノ家ノ宅ナリトシガ大抵

録也四百五拾四ニテ買求ノ之ニ修治シ
七百餘位ノ入費ヲ盡テ古河又之ヲ招
庵ニ六百廿拾餘ニ盡テ一セシモノニシテ
年ニ別々知事一尋出テタムモノナリ
一右杉尾ニ古河西中銀寺大教授ノ幼
力誘負人ナリ右杉尾方ニ教ハ西側也東
入南側 鉦木 跡糸カ誘負致ス一氏若
シキ右杉尾ニ古河ラレタムハ送 徳ナリトテ
一以 給 播 ヲリシ事モ古河ニ是ニハ古河ノ秋了
んナラントノ事)

一此年十月以知恩院ヨリ聖三系糸ヲ借用
致到リノ事 渡ルン氏大坂ニテ修治ノ船
向屋常安橋南流ル橋 古七之ヲ世話セシ
ト云ヘリ其之ヲ身スルニ右杉尾ヨリ出ツト云
フ是見テ橋村ノ聖ナラント云ヘリ
一古河此ニテ古河ノ杉尾ノ居宅ニテ知事カ
聖ニテ買入レタムモノニシテ知事カ隣
屋安ナレバ地界ノ川ニ橋ヲ盡テ門外ニ出テ
スシテ古河ニ出入スントノ事
一藤ノ森ノ神主某ノ所方地五町程アリ

一五、百七拾石位ニシテ其地代三千五百石、
位ノモノナリテ其事一ヨリ勸業坊魚一
等ノ属集ル、後シ右畑地極当ニシテ其七千
石ヲ貸與ヘシトセシテ一ニノ官吏ハ不賸ヲ
唱ヘタニテ其、其事一ノ命令ニ授ヒ七千
石ヲ貸與スヘタリ然レ素ヨリ極当ノ事
ノ知見高ナク其過半ノ損失トナシテ之素ヨ
リ其事カ業累ニ出ラセシメナリト云フ
一右ノ外地亦ノ義ニ於テ種々ノ採利アリ
或ハ先年松原中園寺ナリ地亦ヲ買入

ノ然後々右松原ト島原ヲ移スト評一
米穀サセ右地所極小騰貴スルヲ待テ
其分ノ利ヲ得テ其却セリト云ヒ亦其
京極三年ニ西川道ニ地亦ヲ求メタレハ
入北拂ノ廿五石長布村集ル極当
ヤシメ深一畝ノ地ヲ極マセ其ク之ヲ買
占メタリト云ヒニ條亦魚河道ニ其席
ノアル地ニシテ三四軒所存ニ其内ニ其アリ
米亦其ノ業ヲ営マシハモ云ヘリ

大垣府ノ事况

一中之島ノ湯あり。且代藤田沼田の二人
ノ所方ナリ。此十一年ノ事。本年一月七月
以、買店セリ。右湯泉建原ノ時分。且
代沼田ノ宅。其ノ湯泉。上中ノ
トシ段ノ別ケ。室ヲ異ニス。カイマニ等
ハ。且下。且上。別ノ度。各ヲ格ヘスト
モ。且上。且下。格リシ。テ。或人カ、タレ
ハ。金リ。ノ。実事ナリ。
一与府事。一平等。案。コレ。一。万。二。子。田ノ

起業少債ヲ出セリト云々。其ノ事ナリトノ

河判係一人。コレ。ア。ラ。ヤ。ン。ハ。ト

高府南は長。之。由。伊。之。我。ハ。ハ。味。増

至。コレ。シ。テ。激。ム。タ。レ。モ。ノ。十。ハ。長。ノ。昇。進

セ。シ。ハ。曾。シ。沼。邊。ノ。事。ハ。其。ノ。世。後。セ。シ

功。ナ。リ。ト。其。女。ハ。長。カ。此。事。ノ。モ。ノ。ナ。リ

ト云一り

一。大。垣。日。見。格。お。茶。屋。長。警。部。集

カ。會。議。シ。ケ。レ。云。シ。ア。リ。多。ク。知。ノ。警

察。ハ。惣。テ。遊。多。祝。白。ノ。事。糖。ナ。テ。テ。ハ。行

ハレカタシ 斯リ知事が行ハレテハ 官と
送感 ナリト云ヘリ

一 古坂府ハ 楊州田ハ 其ノ多クニテ 知事
買ハ求メリト 其地 敷々 不ク 地面アリト云
ヘリ

但モ 知事カ 存命ニテ 其ノ官ハ 田知事
カ 所為ナリト云ヘリ

一 沼邊ノ 玉事 一 知事ノ 長官ノ 任居ト
ト 田知事 澤長ト 澤原ハ 本原 某ト 云
子カ 田知事ニテ 澤原ト 知事ト 為 龍ナリ

シカ 如何ナル 故カ 考以 辭 賦セリ 其以 在
世年ハ 八月 以 知事 梅 壺 欠 出 張
ノ 際ニ 澤ノ 出入 稽 算 簿ヲ 以 本 原カ 自
任ニ 持 歸リ 何 得 欠 吉 田 某ト 二人
決 算 兼 セリト 云ヘリ 是ウ 沼邊 玉事 一 日
即 内ニ 在リ 某ヨリ 承 玉 數 シナカク 點
止スニ 云ヘリ 云ヘリ

一 沼邊 田ノ 地 澤ラレタニ 付テハ 其ノ 高ホ
短クモ 多シ 是ニ 澤 田カ 獨リ 権ヲ 認
ニシ 且ク 諸 田 向ニ 為テ 澤 田カ 引

交々々んや以言外高人の好ケニナリシ
故アレハナリ

一古坊に於ラシ孫田ノ質材ハ是ナリト或
ん人ニ持チ余ノ見セタムモノアリ且之我常
ニ多クノ付方主トシモノヨリハオシ
工ガミアウシト云フ

一孫田如雇人オ申合也与分之内本
一ウ由支店多東京オシ我ニ往渡ハ
勿備書交ノ旨ニ出テ致サヌ振ト
ノ事

一古坊府一書ニ海井ノ集ニ其ノ金立
下田ヲ孫田ノ紙リ置キシガナク白ノ
事ヲ字キ紙色ヲ書ハ外事ノ宅ニ
此力キ心能ノ体ニ事悟ラナキシト
云一リ

一孫田ヨリ所産多得書年ハ道ハシタ
ニ字者中ノ多舞レ福スルモノハ其外ニテ
由徳一五位ノ書ニテ其紙ヨリ其象
心外属存ニテ其象ノ子物得長
至ラハ其爲一又ハ其海表ニ事

ち生記者ノ如キハ外ラストノ子

但庶務多務得ノ如キハ軍係トシ

一十年西南戦争ノ際陸軍中佐
ト異向健助ハ中野格一、在コ宿法
致シ島尾少将をハ伏見の藤田ノ和
家ニ移カ如致シ且ニ法渡セリ然ルニ西
南後賢達ノ事ニ付内議アリシ時
ハ名ケ島尾ト藤田ノ家ニ居ルニ時
ナリト云ヘリ

